スキルアップ講習会のご案内

「SU-9 緩和」
内容：がん終末期のアプローチ
開催日:2018 年 1 月 27 日（土）～ 28 日（日）
受付期間：2017 年 12 月 12 日～ 21 日
会場：東京会場（セミナールーム）
申込専用メールアドレス　skillup09@mlaj.jp

ブラッシュアップ講習会のご案内

「BU-5 MLD」
内容：MLD 総合復習
開催日：2018 年 3 月 10 日（土）
受付期間：2018 年 1 月 31 日～ 2 月 8 日
会場：東京会場（セミナールーム）
申込専用メールアドレス　brushup05@mlaj.jp

「BU-6 Bdg」
内容：Bdg 総合復習
開催日：2018 年 3 月 11 日（日）
受付期間：2018 年 1 月 31 日～ 2 月 8 日
会場：東京会場（セミナールーム）
申込専用メールアドレス　brushup06@mlaj.jp

特別講習会のご案内

講義 1　LT 更新クレジット対応講習会
『リンパ浮腫治療の最前線
～外科的治療と保存療法の架け橋～』
講義 2
『陰部リンパ浮腫の診断と治療の最前線』
講師：三原誠先生、原尚子先生、
　　MLAJ 認定教師
開催日：2018 年 3 月 4 日（日）
受付期間：2018 年 1 月 20 日～ 2 月 5 日
会場：東京会場（セミナールーム）
備考：LT 更新クレジット 4 単位取得
申込専用メールアドレス　tokubetsu07@mlaj.jp

見学会のご案内

開催日：2018 年 1 月 19 日（金）、
　　2018 年 2 月 16 日（金）
受付期限：見学会開催日 2 週間前まで
会場：東京会場
申込専用メールアドレス　kengaku@mlaj.jp

医師対象特別講習会のご案内

医師対象特別講習会
『明日から診察に役立つリンパ浮腫診断法
　― 基礎から医療連携まで ―』
開催日：2018 年 4 月 22 日（日）
受付期間：2018 年月 3 日 7 日～ 21 日
会場：東京会場（セミナールーム）
申込専用メールアドレス　tokubetsu01@mlaj.jp

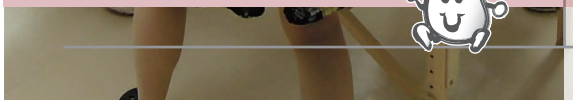
2018年度も中級修了者対象の養成講習会理論聴講が可能です。詳しくはホームページにて

お申し込みは、メール（※申込専用アドレスから）、官製はがきまたは FAX にてお申し込みください。

お問い合わせ・資料請求等
日本医療リンパドレナージ協会 事務局
046-854-7541（火～金　11:00 ～ 17:00）

MLAJ
MEMBER'S MAGAZINE
MEDICAL LYMPHDRAINAGE ASSOCIATION OF JAPAN

［今月のカバーフォト］
授業の風景



日本医療リンパドレナージ協会

会報 Vol.37

2017 winter

2017 年 冬号

Contents

第 2 回 JSLT 学術総会について　1
国際リンパ浮腫治療センター Q&A コーナー　2
会員！講習会参加リポート　3
さとう先生の施設紹介 ニュースザッピング　4
研究論文サマリー 三原先生・原先生特別講習会　5
第 12 回神奈川リンパ浮腫研究会 松尾汎先生特別講習会　6
講習会のご案内　7

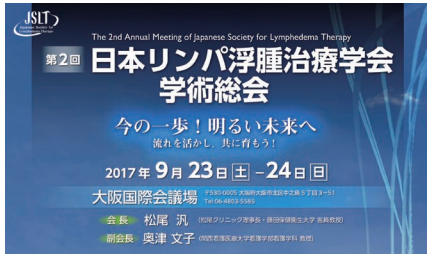
特定非営利活動法人
日本医療リンパドレナージ協会
〒238-0052
神奈川県横須賀市佐野町 2-34
神奈川衛生学園専門学校内
TEL:046-854-7541　FAX:046-854-7542
http://www.mlaj.jp/

第 2 回 JSLT 学会総会・保険委員会調査について

9 月 23 ～ 24 日に大阪国際会議場において、第 2 回日本リンパ浮腫治療学会学術総会が開催されました。

2 日間にわたり約 600 名の方が来場し、最新の研究報告、診断法や治療法に関する発表や質疑応答などが活発に交わされていました。会場から溢れるほど参加者が多かった実践的な技術ワークショップや海外の演者による発表などもあり、盛り沢山のプログラムでした。そのなかで昨年 4 月から大きな話題となっている診療報酬に関して本学会が実施した調査結果報告について保険委員長を務める当協会副理事長新井恒紀先生より発表がありました。会員の皆様に概要を紹介したいと思います。

2016 年 4 月、に念願のリンパ浮腫に対する保存療法「リンパ浮腫複合的治療料」が保険収載され我が国にとって大きな進歩となりましたが、施設規準などの条件はハードルが高く低い診療報酬であることからリンパ浮腫複合的治療料が浸透しにくいと予想されました。保険収載から約 1 年が経過した時点において、全国的にどの程度浸透されてきたかについて、本学会によりアンケート調査を用いて分析されました。約 1ヶ月間の実施期間 (2017 年 3 月末～ 4 月末迄) に、全国各地のがん診療連携拠点病院 417 件にアンケートが



配布され、139施設（33.3％）から回答が得られました。主な結果として次のことがわかりました。

①回答を得た 55.4％の施設にリンパ浮腫外来があります。これは決して高い数値とは言えませんが、リンパ浮腫外来がない理由として、医師がいない(31.9%)、セラピストがいない(27.8%)、病院方針(15.3%)という回答があげられました。

②診療日数に関して、最多は 1 日/ 週(42%)。5 日/週診療を行っている施設は 15% にも至りませんでした。

③リンパ浮腫診療に携わっている医師数が 1 名という施設が約半数(45.8%)を占めました。次いで2 名(25.3%)、3 名以上はわずか 5% 未満でした。

④リンパ浮腫診療に携わっているセラピスト数が 1 名(33.3%)、2 名(27.8%)、3 名(18.9%)であり、人数が増えるにつれその割合が減少し、どの施設も少人数で治療にあたられている現況がうかがえました。

⑤リンパ浮腫複合的治療料が適用されている割合は 16.1% であり、極めて低い結果となりました。

本調査では、医療従事者のセラピスト不足やリンパ浮腫複合的治療料が全国的にあまり浸透されていない状況がわかりました。リンパ浮腫治療の環境整備への継続的な取り組みはこれからも必要であり、次回の平成 30 年度の診療報酬改定に向けて、患者さんのために一日も早く良好な環境が整うことを願い、当協会も引き続き関係者の皆様とともに取り組んでまいりたいと思います。

第 12 回神奈川リンパ浮腫研究会

8 月 5 日に横浜情報文化センター情文ホールにて行われた「第 12 回神奈川リンパ浮腫研究会」に参加いたしました。今回の見どころは、血管外科医、形成外科医、セラピストによる下肢リンパ浮腫に関する治療や研究に関するご発表でした。外科的治療について幾つかの講演を聴くことができましたが、その中から横浜市立大学形成外科の矢吹雄一郎先生による「下肢リンパ浮腫に対する治療タクティクス」について紹介したいと思います。矢吹先生がご発表の中で仰った『リンパ浮腫治療の効果向上には、保存療法と外科的治療の連携が必要である』とのお話に我々セラピストの役割の重要性を改めて認識いたしました。横市大ではリンパ浮腫の診療はまずリンパシンチグラフィーによる機能検査に始まりますが、術前に CPT を行えば、浮腫状態を軽減した状態で、リンパ管静脈吻合術（LVA）時にリンパ管を容易に発見することが可能になるということです。LVA により停滞していたリンパ液が流れやすくなると、術後に行う CPT においてより高い効果が期待できるとの見解でした。LVA 吻合部のうち 60 パーセントは閉じてしまうため、5 ～ 6 本吻合することで何本かが残存するとのことです。その後検査等を行い、必要に応じて CPT の方針を適宜見直していくとのことです。

他には、開業されているセラピストの方からは、東洋医学の観点に基づいて証立てをし、鍉鍼等の接触鍼による治療を併用しているという興味深い発表もありました。続発性リンパ浮腫の患者さんでも、体質によってむくみやすい人、むくみにくい人がいると考えられるため、今後は東洋医学的診断によって体質とむくみの関係性を見出すことに関心があるとのことでしたので、今後の長期的な効果のご報告についても期待したいと思います。また、リンパ浮腫に有効な運動療法の教室を主宰されている先生は自らも乳がんを経験されており、「患者さんが必要としているのは何よりも心のケアである」という言葉が印象に残りました。（CA 川端梓・坂東裕一郎）

松尾汎先生 特別講習会リポート

現在、約 28 万人の医師の中で脈管専門医は 1000 人程であり、今年度も先駆的にご活躍されてこられた松尾先生にご講義いただきました。

講義の前半では、まず脈管疾患の種類や診断法、検査指針について説明があり、その上で下肢循環障害について多くの写真を用いて、具体的に解説されました。特に静脈瘤や深部静脈血栓症について下肢や足部をどのように観察したらよいか、エコー画像の見え方、鑑別方法、フットケア方法、治療法などについて話されました。受講者からは血栓症患者への対応方法や廃用性浮腫患者への圧迫の仕方など、現場で遭遇する足病変の様々なケースについて活発な質問が挙げられました。

後半の実習では、受講者全員で様々な検査法を体験しました。実際にエコー機や、ドプラー血流計を用いた足関節血圧測定、腱反射、振動覚などの検査法を行い、あらためて検査の重要性を確認しました。また 、午後の認定教師による実技では、足病変が合併するリンパ浮腫に対する MLD や Bdg の実践的アプローチについて紹介しました。

今回の松尾先生の特別講習会では、足病変がリンパ浮腫に合併しているケースも多くみられるため、しっかりと足の状態を観察・確認し、見極めて対応していくのが重要であるということを痛感するご講義でした。

（認定教師 笹倉淳子）

特別講習会「循環器系からみた浮腫の鑑別とアプローチ」を受講して

会員講習会参加リポート

千葉県がんセンター
根本　恵美

私の勤務する病院は、がん専門病院ということもあり、手術後のリンパ浮腫はもちろん、抗がん剤の投与後に生じる浮腫、がんの進行による浮腫、血栓による浮腫、栄養状態の悪化による浮腫など多種多様な浮腫を生じる患者さんがおられます。これらの患者さんに対し、私たちは受診時間内に、浮腫の鑑別を考慮し対処方法を適切に伝える必要があります。セラピストとして活動の場を頂くようになり、浮腫について相談される場面が増え、患者さんに起きている浮腫がどのような要因であるか、浮腫の鑑別で悩んだり、適切なケア方法について迷うことがたくさんあり、その職責の重さを感じております。今回、特別講習を希望するに至った経緯として、ある症例の浮腫鑑別と処置に迷う場面があったことがあげられます。その患者さんは、終末期にあり、下腿浮腫に加え、色素沈着、潰瘍形成、浸出液もかなり多いという状況でした。担当医師、皮膚創傷ケア認定看護師の協力を得てなんとか対応することができましたが、循環器系に関連した浮腫に関わる際は、いつも深部静脈血栓症が気がかりとなり、やはり不安になります。

今回、重松宏先生の講義を受講し、上肢・下肢深部静脈血栓症、一次性・二次性静脈疾患の病態、鑑別方法、予防方法、治療方法などが明確となり、静脈疾患に起因する浮腫の鑑別方法と血栓症に対する早期治療の大切さについて学ぶことができました。また、実技では静脈性浮腫や潰瘍形成周囲のマッサージ方法と圧の加減、弾性包帯装着時に使用するスポンジとその効果について実際に体験することができ、充実した講習会となりました。

当院では、下半期を目標にリンパ浮腫外来を立ち上げることとなっており、現在、週１回、形成外科外来に常駐し、その準備をしておりますが、改めて、浮腫を生じている患者さんがたくさんいることを実感しています。リンパ浮腫の鑑別では、形成外科医による蛍光リンパ管造影が実施され、浮腫の鑑別と病期の診断が行われます。しかし中には浮腫みを生じていてもリンパ浮腫の所見ではない患者さんがおり、長い間リンパ浮腫だと思っていたという方もおられます。こうした患者さんに対し、浮腫について身近に知る機会と対処方法について学ぶ環境づくりを行い、セルフケアが継続できるようなサポートができればよいと考えております。今後も担当医師、形成外科医、皮膚科医、皮膚創傷ケア認定看護師、乳がん認定看護師、管理栄養士との連携を図り、浮腫で悩んでおられる患者さんとのつながりを少しずつ広げ、日常生活が浮腫によって制限されることなく一日一日を穏やかに楽しく過ごしていけるよう、患者さんと共に歩む存在になりたいと考えております。

今後もリンパ浮腫について継続して学びを深め、個々の症例について適切な判断やケアが行えるよう、知識と手技の向上を図れるようにするとともに、リンパ浮腫の指導やケアに携わってくれるスタッフが増えていってくれるよう活動を続けていければと思います。

＜講習会開催日：2017年８月６日＞

さとう先生の施設紹介

全国各地で活躍するセラピストや施設を佐藤佳代子先生が紹介します！

京都市右京区　古都治療院

古今和歌集に詠まれた月の名所として知られる京都市右京区、神ノ木弁財天が鎮守する地に、訪問リハビリを中心にリンパ浮腫治療に取り組む治療院があります。その名も「古都治療院」。

院長の福末由美子さんは、長年救命救急センターで活躍していた看護師さんでもあります。転機が訪れ、鍼灸あん摩マッサージ指圧師の国家資格を取得後、リンパ浮腫治療と出会いました。開業されてから 10 年、近隣の医療機関と連携しながら、3 名の医療リンパドレナージセラピスト、あん摩マッサージ指圧師、鍼灸師、看護師、スポーツトレーナー、健康運動指導士のお仲間と共に、ご高齢の方や難病を抱える患者さんのケアにも力を注がれています。

特にご高齢の患者さんはリンパ浮腫以外にも多種多様な疾患を併発されていたり、認知症や ADL 低下などの課題もあります。訪問先の限られたスペースにおいて試行錯誤しながら、患者さんやご家族を明るく励ましながら、地域の心強い存在として活躍されています。患者さんを優しく包み込む福末さんの温かい笑顔には『外からだけでなく、身体のなかから元気にしたい』という想いが溢れています。

古都治療院
福末由美子さん（真ん中）とスタッフの皆様

WORLD ニュース ザッピング P.Wagner

「国際リンパ浮腫フレームワーク学術大会」

当協会のパートナー団体である国際リンパ浮腫フレームワーク（ILF）の次大会は 2018 年 6 月 6～9 日にオランダのロッテルダム市にて開催されます。共催者はオランダのリンパ浮腫フレームワーク NLNet です。毎年世界各国から 300 人以上の方々が参加される ILF 学術大会であり、ぜひ日本からも多くのセラピストの皆さんのご参加も期待されています。詳細については ILF の学術大会ホームページをご覧ください。

http://www.2018ilfconference.org/

研究論文サマリー

当協会に医療リンパドレナージ（MLD）とがん再発との関連性についてお問い合わせをいただくことがあります。今号では 2011 年にオーストラリアのフリンダーズ大学の研究チームがリンパ浮腫ジャーナルに出した論文を一つの参考として紹介したいと思います。

フリンダーズ大学の研究チームは同大学附属病院乳がん病棟およびリンパ浮腫クリニックの 2000 年～ 2010 年の期間の患者データについて、リンパ浮腫治療を受けた方と受けていない方の中でがん再発の割合に有意差があったかどうかを確認するために分析しました。リンパ浮腫治療には、リンパ流を促進する方法として、低出力レーザーと MLD が含まれていました。結果として 1298 名の乳がん患者のうち､52 名にリンパ浮腫が認められ、リンパ浮腫治療を受けました。リンパ浮腫治療を受けたグループのがん再発の割合は 52 名のうち 3 名（5.8%）、リンパ浮腫治療を受けていないグループのがん再発率は 1246 名のうち 48 名（3.9%）で有意差が認められませんでした。

主に提出力レーザーと MLD を含むリンパ浮腫治療においては、がん再発率に影響を及ぼさないということが明らかになりました。

詳しくは、こちらでご確認ください。
de Vries N, Piller N, Dawson R et al.
Is there a link between LE treatment and breast cancer reoccurence? Journal of Lymphoedema, 2011, Vol 6, No 1:85-86

三原先生・原先生 特別講習会

今回の特別講習会にマイクロサージェレーのお二人のスペシャリストにご講義いただく予定となっております。

前半の一つ目のテーマは三原誠先生による『リンパ浮腫治療の最前線～外科治療と保存療法の架け橋～』であり、リンパ管機能評価、吻合術と保存療法との組み合わせについてお話いただきます。二つ目のテーマは原尚子先生による『陰部リンパ浮腫の診断と治療の最前線』である、陰部リンパ浮腫の合併症として生じやすいリンパ小疱やリンパ漏など、また、吻合術の治療効果についてご説明いただきます。後半には認定教師による外科手術後の MLD の実践について実習を予定しています。

開催日時：3 月 4 日 (日)、9:30 ～ 16:30
申込期間：1 月 20 日 (土) ～ 2 月 5 日 (月)
　　17：00 必着
申込条件：当協会養成講習会中級修了者
　　または
　　リンパ浮腫療法士（LT) 有資格者
申込方法：メール、はがき、または FAX にて
会場：東京衛生学園専門学校内　東京会場

詳細につきましては､チラシまたはホームページをご覧ください。

「国際リンパ浮腫治療センター」新設

2017 年 4 月、広島大学病院内にリンパ浮腫治療に特化した大学診療センターとして「国際リンパ浮腫治療センター」が開設されました。

長年にわたり、機器・技術の開発、後身の育成、世界への発信、臨床基礎研究の発展に向けて、日本から世界にリンパ浮腫外科的治療を発信し続ける 光嶋 勲センター長 (前東京大学形成外科教授) を中心に、国内外より高度な専門治療技術を求める多くの外科医、患者さんを受け入れています。光嶋教授は 1996 年より海外ライブ手術（22 カ国 32 施設)、海外招待講演（300 回）をこなし、海外からの手術見学者（約 300 名）を直接指導されています。このような数多くの取り組みから、今日ではリンパ浮腫やそれに合併する血管肉腫、蜂窩織炎などは治癒可能あるいは進行・発症予防可能な疾患として次第に認識されつつあります。
【新書紹介】光嶋 勲 (編)「リンパ浮腫の外科的治療」ぱーそん書房

MLAJ『Q&A』コーナー

このコーナーでは、皆さんからの日頃のお問い合わせ内容に、Q&A 形式でお答えします。本号は、「養成講習会について」です。

【Q1】今年から養成講習会に「医師対象理論講習会」が加わりましたが、どのような内容ですか。

A：「医師対象理論講習会」は、厚生労働省の複合的治療料施設基準（医師の 33 時間以上の座学修了）を満たす講義内容が主体となります。当協会では、講義を通じて、リンパ浮腫診療の基軸となるリンパ浮腫をはじめ様々な成因で生じる浮腫、がん治療、複合的理学療法などに関する知識をご提供しています。

安全で効果的な治療とケアは「医師による適切な診断」から始まりますので、複合的治療に精通した先生方が、全国各地に居てくださることは大変心強いことです。

【Q2】『医療リンパドレナージセラピスト養成講習会』と『新リンパ浮腫研修修了者対象 実技講習会』との違いは何ですか。

A:『医療リンパドレナージセラピスト養成講習会』は、胎動期を経て 1999 年からスタートした当協会の基盤の講習会となります。続発性・原発性リンパ浮腫、静脈性浮腫、外傷性浮腫などを網羅した 151 時間の講習会です。修了後は、「フェルディ／ MLAJ 医療リンパドレナージセラピスト修了証」が発行されます。

『新リンパ浮腫研修修了者対象 実技講習会』は、今年から開講となりました。がん治療後遺症として発症する続発性リンパ浮腫に特化した 84.5 時間の講習会です。修了後は、MLAJ より「修了証」が発行されます。

【Q3】養成講習会修了後の継続研修について、どのような講義が受講できますか。

『医療リンパドレナージセラピスト養成講習会』修了者は、当協会が提供するすべての継続研修会やセミナーにご参加いただくことができます。『医師対象理論講習会』修了者は特別講習会の一部、『新リンパ浮腫研修修了者対象実技講習会』修了者は、ブラッシュアップ講習会と特別講習会の一部に受講ができます。